【決算演習問題】

次の資料と精算表の残高試算表欄の資料に基づいて、残高試算表を完成し、A社の2006年3月期の貸借対照表と損益計算書を完成せよ。

A社の2008年3月末決算にあたって作成した精算表の残高試算表欄は下記のとおりであった。また決算整理事項は次のとおりであった。

（決算整理事項）

１．商品の期末棚卸高は1,500百万円であった。

２．仕入帳簿を確認したところ、掛で仕入れた商品197百万円の返品が記載もれになっていた。

２．商品の実地棚卸終了後、担当監査法人の会計士による在庫調査がなされた。その際、A社では翌期に買い戻すことを条件に取引先に「対策売上」と称する掛売上（売上原価率70%）が400百万円計上されていることが判明した。そこで、指摘どおりに売上高を修正することにした。

３．上記の処理を終えた後の売掛金残高について２%の貸倒引当金を計上することにした。

４．有形固定資産の減価償却は次のような方法で行っている。

備品：取得原価1,800百万円、耐用年数5年、残存価額ゼロとする定額法

建物：取得原価11,400百万円、耐用年数30年、残存価額ゼロとする定額法

５．長期借入金は2005年8月1日付けで借り入れたもの。借入条件は次のとおり。

借入期間10年、年利率4%、利払いは年１回で8月1日に前払い。

精　算　表

2008年3月31日

単位：百万円

勘定科目	残高試算表		決算整理		損益計算書		貸借対照表	
	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方	借　方	貸　方
現金	3,168							
売掛金	4,200							
貸倒引当金		64						
有価証券	4,258							
繰越商品	1,200							
備品	1,800							
建物	11,400							
買掛金		3,569						
長期借入金		9,400						
備品減価償却累計額		720						
建物減価償却累計額		4,940						
資本金		4,100						
利益剰余金		2,016						
売上		18,525						
有価証券売却益		1,870						
仕入	12,100							
給料	5,724							
水道光熱費	978							
支払利息	376							
	45,204	452,064						
（　　）								
（　　）								
（　　）								
減価償却費								
当期純利益								

)